

Future of Hokkaido

- この計画では、科学技術の振興を通じて目指す北海道の姿として、三つの基本目標を掲げています。
- それぞれの目標ごとに、人工知能(AI)やIoT、ビッグデータ、ロボットなど、「第4次産業革命」を中心としたイノベーションが進んだ「北海道の未来(おおむね10年後)」を描きます。

基本目標1

持続的な経済成長の実現



基本目標2

安全・安心な生活基盤の創造



基本目標3

環境と調和した持続可能な
社会の実現



Future of Hokkaido

基本目標1

持続的な経済成長の実現

北海道の持続的な経済成長を実現するため、「食」や「新エネルギー」などの豊かな資源、これまで培ってきた研究成果や多様なネットワークなど、本道の有する強みや可能性を活かした科学技術振興施策により、付加価値が連続して生み出され、成長する経済の実現に貢献します。



「食」や「ものづくり」など、産業の現場では・・・

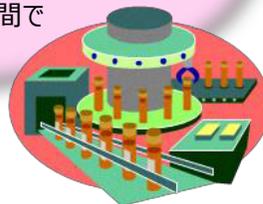
農林水産業の現場

自動運転トラクタをはじめ、作業のロボット化やリモートセンシング技術などを活用して、超省力・高品質生産が実現し、きつい作業、危険な作業、長時間労働は過去のものとなっています。



製造業の現場

機器の動作状況をリアルタイムに把握し、様々な故障やトラブルを防止します。需要の変化に合わせて生産調整したり、製造ライン構成を素早く変更するなど、多品種生産を短期間で完成できます。



産業を支えるイノベーションは・・・

オープンイノベーション

企業と大学間でのデータ利活用が進み、人材交流や企業からの大学等への投資が活発に行われ、オープンイノベーションが進んでいます。研究成果や先進技術は、国内外に次々と発信・活用されています。



衛星技術

通信が困難であった山間部でも、衛星を通じた常時接続の大容量高速通信が可能となり、衛星測位データの活用などにより山間部の農産物を自動で収穫・販売・出荷するシステムが構築されています。



ものづくり技術

ものづくりを支える、現場の技術やノウハウがデータとして蓄積され、AIの処理により、データの活用や思考プロセスの体系化などを通じて、円滑に受け継がれています。



新事業展開

観光ビッグデータをAIで処理し、パーソナライズされた情報を駆使して、利用者のあらゆるニーズをカスタマイズするスマートツーリズムなど、サービス業を中心に新たなビジネスモデルが生み出されています。

